

レポート

九州新幹線全線開業へカウントダウン

整備進む熊本駅周辺

九州新幹線の全線開業が2011年3月12日と決まり、熊本県や熊本市、国土交通省などはJR熊本駅及び駅周辺の整備を急ピッチで進めている。全体の輪郭が少しずつ見えてきた熊本駅周辺の開発現場をカメラで追った。

駅前東A地区で建設が進む再開発ビル（約1.4ha、延べ床面積5万1900㎡）。右が地上35階建てのC棟「ザ・熊本タワー」で、現在、大型クレーンで20階近くまで鉄骨が組み上げられている。その左が6階建てのA棟。写真奥は熊本駅東口（10月18日、白川橋側から撮影）



観光情報施設を11年秋に先行オープン 熊本駅前東A地区



▲情報交流会館「くまもと森都心プラザ」（パース図、低層階部分）

一方、熊本のランドマークとして森ビル都市企画などが建設するC棟は、地上35階建ての超高層マンション「ザ・熊本タワー」。高さ123メートルという県内で最も高いビルになる。マンションの販売価格は1600万円台（1LDK）から1億5千万円台（4LDK）で、総戸数は225戸。既に9割近くが販売されているという。

熊本駅東口広場を背にして、白川橋方面に進んだ左側一体で進められている熊本駅前東A地区の再開発ビルは、A棟（公益・商業棟）、B棟（権利者棟）、C棟（超高層住宅棟）の3棟で構成。街区の名称は「くまもと森都心（しんとしん）」と名づけられた。完成は新幹線開業1年後の2012年3月の予定で、現在、A棟とC棟の工事が進んでいる。

A棟（地下1階・地上6階建て）は事業主体である熊本市が建設。地下に100台収容の駐車場、1階に商業施設、2階から6階までは、観光情報発信施設や情報図書館、ビジネス支援サービス部門などのほか、多目的ホール（約500人収容）を整備。2階から6階までの4フロアは11年秋に先行オープンさせる考えだ。

熊本駅東口広場を背にして、白川橋方面に進んだ左側一体で進められている熊本駅前東A地区の再開発ビルは、A棟（公益・商業棟）、B棟（権利者棟）、C棟（超高層住宅棟）の3棟で構成。街区の名称は「くまもと森都心（しんとしん）」と名づけられた。完成は新幹線開業1年後の2012年3月の予定で、現在、A棟とC棟の工事が進んでいる。



▲新大阪-鹿児島中央駅間を直通運転するN700系「さくら」



新熊本合同庁舎A棟がほぼ完成 九州財務局など6官署が移転へ

国土交通省が熊本市春日2丁目の月星化成跡地に建設している新熊本合同庁舎A棟（地下1階・地上12階建て、延べ床面積2万6300㎡）がほぼ完成。来年3月末には、九州財務局や九州農政局など6官署、約1100人が熊本市の二丸の合同庁舎から移転する見込みだ。しかし、敷地内の合同庁舎B棟の建設については、国の出先機関の統廃合問題で依然、移転計画は凍結状態となっている。

一方、この新熊本合同庁舎前を走る市電は、熊本駅から田崎橋電停までの市電軌道を道路中央から西側の歩道に寄せるサイドリザベーション化が完成。熊本市では軌道に芝生を敷く市電緑化工事「緑のじゅうたん」を推進中で、田崎橋電停付近では約30メートルの軌道が緑で覆われている。

▲建物ほぼ完成し、周辺の植栽が進められている新熊本合同庁舎A棟



▲万日山から見た熊本駅西口の再開発地域。住宅の区画整備なども進み、新しい「街」が形成されようとしている。▼写真下は年内の完成を目指し、観光・団体バスの拠点としてバスやタクシーの乗車場が整備されている



西口広場は年内完成

ひと足先に駅舎エントランスから市電電停までを覆う大屋根が完成した駅東口広場の反対側（春日小学校側）となる熊本駅西口広場でも、年内の完成を目指し、観光・団体バスの拠点としてバスやタクシーの乗車場（約5700㎡）が整備されている。

また、新幹線高架下にはJR九州が物販・飲食施設と立体駐車場を建設。物販施設にはコンビニや土産物店、飲食施設には和食と洋食、カフェの3店が入居し、来年3月1日にオープンする予定だ。